

# 2025年活動報告

## 交通社会の変化やニーズに対応した活動を国内外で展開

2050年に全世界でHondaの二輪車、四輪車が関与する交通事故死者ゼロをめざし、Honda安全運転普及本部は2025年も「人から人への手渡しの安全」と「参加体験型の実践教育」を基本に交通社会の変化やニーズに合わせ、国内外で活動を展開した。

### 教育プログラム・教材の開発

#### 小学生に自転車の交通ルール・マナーなどをわかりやすく伝える「デジタル自転車かるた」

小学生への継続的な自転車教育を支援するため、3月に「デジタル自転車かるた※1」を完成させ、小学校の先生方や地域の交通安全指導者への提供を開始した。「デジタル自転車かるた」は、自転車の交通ルール・マナーや安全な乗り方を紹介する45の絵札と読み札で構成。先生方のパソコンやタブレット端末を通じて、モニターやスクリーンにかるたの絵札を表示し、それが示す内容を児童に考えてもらう。絵札から読み札を予想するというクイズ形式になっているため、児童が楽しみながら学ぶことができる。また、絵札のアニメーション機能を使うことで、自転車

乗用中に必要な安全行動について理解してもらいやすくなっている。かるた1枚あたりの指導時間は2分程度。短時間で手軽に自転車教育を行うことができる。

※1「デジタル自転車かるた」で扱う自転車とは道路交通法施行規則の「普通自転車」を指す。



「デジタル自転車かるた」の詳細については以下のホームページ参照。  
[https://global.honda/jp/safetyinfo/digital\\_karuta\\_bicycle/](https://global.honda/jp/safetyinfo/digital_karuta_bicycle/)

#### 「交通安全教育プログラム勉強会」に参加した交通安全指導者の知識と経験を新たな教材の開発に活かす

「交通安全教育プログラム勉強会」は、地域の交通安全指導者が相互の指導方法の確認や意見交換を通じて、指導力の向上に役立てもらうこと、交通安全指導者の知識と経験を新たな教育プログラムの開発に活かすこと目的としている。

8月に開催した勉強会では現在、開発中の教材「デジタル自転車ルールカード(仮称)」(P3参照)の目的や内容を紹介し、どのように活用すれば効果的か、参加者同士で話し合っていただいた。討議を通じて得られた意見やアイデアを参考にしながら教材の開発を進めている。



会場の虎ノ門アルセアタワー(東京都港区)には全国8地区から交通安全指導者16名が集まった

#### 「こども会議 × SAFETY MAP」がキッズデザイン賞受賞

福島県会津若松市で同市内の小学生とその保護者を対象に交通安全ワークショップ「こども会議」を2024年10月から2025年3月にかけて計3回開催した。これはSAFETY MAPを活用し、自分たちの生活圏に潜む危険を親子で考えることを目的とした取り組みである。

「こども会議」では児童が危険を感じた箇所をSAFETY MAPに投稿。その後、グループに分かれて、各々が投稿した危険箇所がどのようにしたら安全になるかを話し合った。

「こども会議」とSAFETY MAPは、子どもの目線から危険と感じた場所を可視化し、他者と共有して自らの行動を考える点が評価され、第19回キッズデザイン賞(右記参照)を受賞した。



2025年3月に開催された「こども会議」には会津若松市内の6つの小学校から児童25名とその保護者が参加



SAFETY MAP(<https://safetymap.jp/>)はHondaが2013年から公開しているデジタル地図ツールで、街中の危険箇所に関する情報を誰でも投稿、共有できるようになっている。パソコンやスマートフォンで閲覧可能

**キッズデザイン賞「こども交通安全会議 × SAFETY MAP」の詳細は右記のホームページ参照。**  
[https://kidsdesignaward.jp/search/detail\\_250382](https://kidsdesignaward.jp/search/detail_250382)  
キッズデザイン賞は、子どもの安全・安心と健やかな成長・発達に寄与する、優れた製品・サービス・空間・活動・研究などを顕彰するもので、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会が主催し、経済産業省、内閣府、消費者庁、子ども家庭庁が後援している。

### 他社と連携した活動

#### Uber Eatsの配達員向けの啓発コンテンツの開発に協力

Uber Eats Japan(同)(東京都港区)が運営するフードデリバリーサービスUber Eatsでは、二輪車や自転車を利用して配達員が商品をお客さまに届けている。

同社は二輪車を利用する配達員の交通安全意識向上のため、Hondaのウェブサイトに掲載している動画による「危険予測トレーニング」(以下、KYT)を活用していたが、配達シーンに特化した独自のKYTを開発することとなった。Hondaは監修という立場で協力し、同社に様々な助言を行った。完成したKYTは3月から日本をはじめ、アルゼンチン、ブラジル、ドミニカ共和国、メキシコ、イギリス、台湾、インド、バングラデシュの9の国と地域で配達員用のアプ

リを通じて利用できるようになっている。

さらに、Hondaの交通教育センターのインストラクターが



Uber Eatsの配達員が利用しているKYTは180°の3Dアニメーションで、スマートフォンを左右に移動すると、その場面を様々な角度から確認できるようになっている

配達員を対象にウェビナーを実施するなど、今後も配達員の事故削減に寄与していきたい考えだ。



## 海外における活動

### タイ、中国でインストラクターの競技大会を開催

安全運転普及活動の核となる交通教育センターは、活動のレベルアップを図るため、インストラクターの安全運転技術と指導力の向上に努めている。その取り組みの一つとして毎年「アジア・大洋州地域安全運転インストラクター競技大会」を開催。1月にタイで行われた同大会には8カ国117名のインストラクターが参加した。運転技術の研鑽だけではなく、お客さまへの指導力の強化や各国参加者による効果的な施策を共有することで、活動の質の向上につなげている。

また、中国では9月から10月にかけて販売店のインストラクターによる「安全運転技能大会」を初めて開催。中国国内から選抜された54名が予選に参加し、上位20名が決勝に臨んだ。



タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナム、インド、フィリピン、台湾、シンガポールから117名が参加



インストラクター競技大会では運転技術とお客さまへの指導力を審査



中国で初開催となった安全運転技能大会の決勝では実技(上)や模擬解説(下)などが行われた

### UAEで初となる安全運転研修を実施

UAE(アラブ首長国連邦)ではデリバリーサービスの需要急増に伴い、特にドバイなどの都市部でデリバリーライダーのバイク事故が増加している。

事故低減に向けて、アフリカ・中東地域を統括するHondaの拠点HAMER(Honda Africa and the Middle East Representative Office)は、デリバリーライダー向けの安全運転研修と、現地インストラクターを養成するための研修を実施した。

HAMERはドバイ道路交通局と連携し、9月に「ドバイオートドロームナショナルサーキット」で安全運転研修を開催。主要デリバリーサービスのライダー27名が参加した。交通教育センター・レインボービーチ名湖のインストラクターが2日間にわたり、座学と実技による指導を行った。これと併行



ドバイで働くデリバリーライダーが座学と実技による安全運転研修を受講



して、HAMERのスタッフ3名を現地インストラクターとして養成するための研修も実施。3名はアフリカ・中東地域で初となるHondaの認定インストラクターとなった。



インストラクター養成研修では初心運転者を想定した指導のロールプレイなどが行われた



### ベトナムの小学1年生全員にヘルメットを寄贈

Honda Vietnam(HVN)はベトナムの国家交通安全委員会と教育訓練省と協力して、同国の小学1年生へのヘルメット寄贈プログラムを展開している。ベトナムのライダーへヘルメットを着用する習慣を根づかせ、安全基準に適合したヘルメットの着用率を100%にすることが目的である。HVNは、このプログラムを通じて、保護者に自分自身と子どものためにヘルメットを着用することを呼びかけている。

10月にハノイにあるヴァンバオ小学校で2025-2026年度の発足イベントが開催され、三部敏宏 本田技研工業(株)取締役代表執行役社長と貝原典也 同取締役代表執行役副社長が出席した。2025-2026年度はHVNを通じてヘルメット180万個を寄贈する。



イベントに参加した小学1年生にヘルメットが手渡された  
発足イベントでスピーチを行う  
三部敏宏 本田技研工業(株)取締役 代表執行役社長

### Safety Info. インフォメーション

## 第55回全国白バイ安全運転競技大会開催 全国の白バイ隊員が安全運転技術を競う

昨年10月11日と12日の両日、自動車安全運転センター安全運転中央研修所(茨城県ひたちなか市)で第55回全国白バイ安全運転競技大会(主催:警察庁)が開催された。同大会は「白バイ乗務員の運転技能を向上させ、受傷事故の絶無を期すとともにその士気の高揚を図り、もって道路交通の安全の維持に資すること」を目的として、1969年より

実施されている。Hondaは同大会の審判業務に協力するなど運営をサポートした。

今回は44都道府県警察および皇宮警察から、女性隊員34名を含む123名の選手が参加。1日目の競技は悪天候のため中止となり、2日目の不整地走行操縦競技、傾斜走行操縦(スラローム)競技の計2種目(女性の部は傾斜走行操縦競技のみ)が行われた。



傾斜走行操縦(スラローム)競技



不整地走行操縦競技

- 主な結果は以下の通り
- 団体競技の部・第1部(9都府県警察)  
第1位/警視庁 第2位/兵庫県 第3位/愛知県
  - 団体競技の部・第2部(35都府県警察および皇宮警察)  
第1位/熊本県 第2位/山梨県 第3位/高知県



閉会式では各部と種目別の入賞者を表彰